

# 統合失調症における「結論への飛躍」が 社会行動に与える影響を解明する

## 【本件のポイント】

- 統合失調症患者において、少ない情報ですぐに決める「結論への飛躍（JTC）」の生活への影響を検証
- JTC が社会行動や全般的な機能の低下と関連していることを明らかにした
- JTC の社会行動における思考障害と独立した関連が示され、JTC を標的とした治療による社会生活改善の可能性を示した

学校法人関西医科大学（大阪府枚方市 理事長・山下敏夫、学長・木梨達雄）リハビリテーション学部作業療法学科（学部長・飯田寛和）林助教らの研究チームは、「統合失調症における結論への飛躍と社会行動との関連」という研究結果を発表しました。詳しい研究概要は次ページ以降の別添資料をご参照ください。

なお、本研究をまとめた論文「Jumping to Conclusions and Social Behavior in Individuals Diagnosed with Schizophrenia」が国際学術誌『Schizophrenia Research: Cognition』（インパクトファクター：3.0）に4月2日（木）付でオンライン掲載されました。

今回の研究により、統合失調症患者における少ない情報ですぐに決める「結論への飛躍（Jumping to Conclusions: JTC）」が、実際の社会行動における思考障害と関連しているという研究結果を発表しました。本研究は、これまで不明確であった認知の偏りと実生活における行動との直接的な関連性を証明しました。

## ■ 書誌情報

|        |   |
|--------|---|
| 掲 載 誌  | 『Schizophrenia Research: Cognition』<br>DOI: <a href="https://doi.org/10.1016/j.scog.2026.100434">https://doi.org/10.1016/j.scog.2026.100434</a> |
| 論文タイトル | Jumping to conclusions and social behavior in individuals diagnosed with schizophrenia  |
| 筆 者    | Ryota Hayashi, Yuichiro Takahama, Hiroyuki Inadomi, Ryouhei Ishii, Seiichi Watanabe, Kazuki Yoshida, Hiroki Okada, Masafumi Yoshimura           |

## 【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（佐脇・両角・林）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@kmu.ac.jp

## 別添資料

### <本研究の背景>

統合失調症において、少ない情報だけで性急に結論を出してしまう「結論への飛躍 (JTC)」という認知の偏りは、妄想などの精神症状と関連することが知られてきました。この「結論への飛躍 (JTC)」は統合失調症患者によくみられる意思決定の一つですが、このバイアスが実際の日常生活における「社会行動」にどのような影響を与えているのかについては、これまで十分に解明されていませんでした。統合失調症患者の社会復帰を支援するためには、こうした認知の偏りが具体的な行動の障害にどう結びついているかを明らかにすることが不可欠です。

### <本研究の概要>

本研究では、統合失調症患者 68 名と健常対照者 60 名を対象に、確率推論課題であるビーズ課題を用いて、結論への飛躍 (JTC) の有無を評価しました。社会行動 (Social Behavior) とは、他者との交流、協力、対人マナーなど、観察可能な社会生活に必要な行動を指します。本研究では社会行動を評価する「Social Behavior Schedule (SBS)」や心理的、社会的、職業的機能を全般的に評価する「機能の全体的評定尺度 (mGAF) 尺度)」を用いて、抑うつ行動、社会的ひきこもり、思考障害などのいくつかの社会行動を分析し、JTC との関連を調査しました。

### <本研究の成果>

JTC バイアスを持つ群は、持たない群に比べて、全般的な社会行動の障害が重く、全体的な機能レベルも有意に低いことが判明しました。統計的な調整を行った後も、社会行動における「思考障害」が、JTC と強い独立した関連性を示しました。これは、性急な意思決定の特性が、社会的な場面での思考障害に関連する行動として現れている可能性を示唆しています。本成果により、JTC という認知の偏りを改善するアプローチが、薬物療法だけでは改善しにくい社会行動や、生活能力の向上に寄与する可能性が示されました。

### <本件研究に関するお問合せ先>

学校法人関西医科大学

リハビリテーション学部作業療法学科 助教

林 良太

大阪府枚方市新町 2-5-1

TEL：072-804-0101 (代表)

E-mail：hayashi.ryo@kmu.ac.jp

#### 【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室 (佐脇・両角・林)

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@kmu.ac.jp